

# 横浜市 浸水ハザードマップ (栄区)

保存版

## 栄区避難場所マップ(風水害編)の使い方


**スタート** 「1 情報の入手方法と日頃からの備え」をご覧ください。浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが重要です。

**あなたのお住まいや職場で浸水が発生するおそれがありますか?**  
 「洪水ハザードマップ」(河川氾濫による浸水)  
 「内水ハザードマップ」(下水道や水路からの浸水)の浸水想定区域を確認しましょう。

「洪水ハザードマップ」「内水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方 ⇒ 「2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について」をご覧ください。

**マイ・タイムラインを作成しよう**

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画です。



横浜市 令和8年6月発行

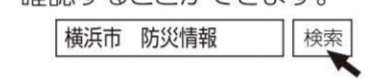
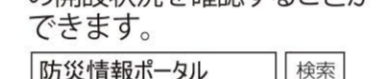
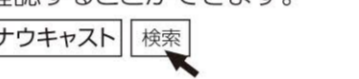
## 1 情報の入手方法と日頃からの備え

災害が発生する危険性が高まり、避難する必要がある場合に、横浜市は「高齢者等避難」「避難指示」のほか「屋内での安全確保措置」の指示を発令します。

### 自動配信されるもの(PUSH型)

- **横浜市防災情報Eメール 要事前登録**  
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
- **防災アプリ 要事前登録**  
「Yahoo! 防災速報」「横浜市避難ナビ」アプリをインストールしていただくことで、横浜市からの防災情報等をスマートフォン等で受信できます。
- **ファックス**  
聴覚障害者の方の自宅(要事前登録)、洪水浸水想定区域内の要援護者施設等の事業所に配信します。
- **緊急速報メール**  
緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- **親水拠点警報装置**  
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生の危険性や避難情報等をお知らせします。
- **緊急警報放送**  
テレビ・ラジオ等から警報音を発し、重要かつ緊急な災害情報を放送します。
- **広報車等による広報**  
状況に応じて、必要な地域へ広報車が出動します。また、職員を派遣したり、消防局ヘリコプターを出動させることもあります。

### 自身で情報収集するもの(PULL型)

- **ホームページ**  
横浜市 防災情報  
気象警報や河川の水位、潮位等を確認することができます。
- **防災情報ポータル**  
避難指示の状況及び避難所の開設状況を確認することができます。
- **降水ナウキャスト**  
現在の雨雲の動きや今後の動きを確認することができます。
- **横浜市トップページ(緊急情報)**
- **X(横浜市 防災・危機管理) @yokohama\_saigai**
- **テレビ** ● **ケーブルテレビ** ● **データ放送**
- **tvk(テレビ神奈川)データ放送** ● **ラジオ** ● **コミュニティFM放送**

## 栄区避難場所マップ(風水害編)で自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
  - 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、ハザードマップに書き込みましょう。鉄道や道路を渡れる場所を確認しましょう。
- なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります(ハザードマップ参照)。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。
- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。

## 避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックザックなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。

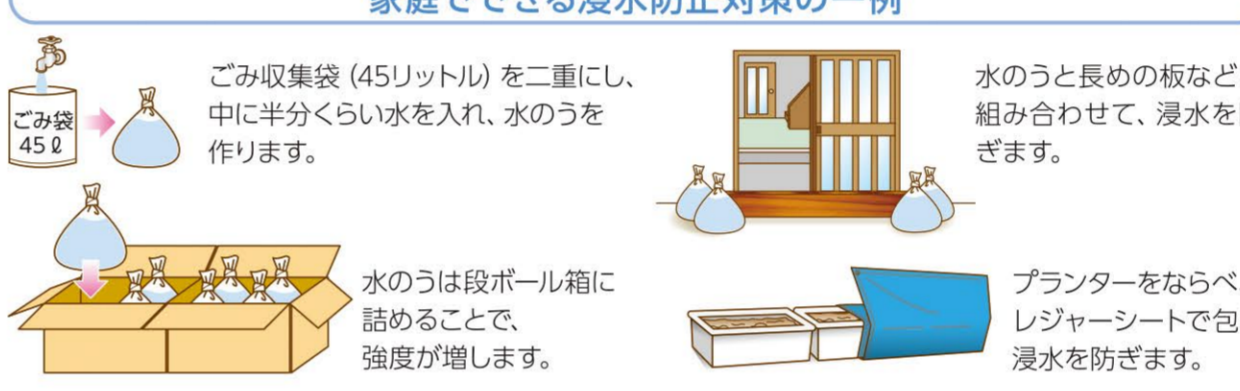
## 側溝や雨水ますを点検しよう

- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。

## 浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用して水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

**家庭でできる浸水防止対策の一例**



## 避難の考え方

● 身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

**安全な場所へ避難(水平避難)**  
 (避難場所※、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)  
 ※すべての避難場所を開設するわけではありません。(ハザードマップ参照) 避難する前にどの避難場所が開設されているか、市・区ホームページ等で確認してください。

**建物内へ避難(垂直避難)**  
 浸水深が浅くても水の流れによっては歩行が困難となります。無理をして屋外へ避難せず、高所へ垂直避難をしましょう。

**屋内の安全な場所待機(屋内退避)**  
 (夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難することができない場合)

**安全な経路で避難しよう**  
 河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落しないよう十分に注意して、近寄らないようにしましょう。

**地下街・地下施設の浸水は危険です**  
 浸水の危険性があると感じたときは、速やかに地上階に避難しましょう。



## 3つの質問でわかる!わたしの避難行動

**Q1 住んでいる地域は、浸水想定区域や土砂災害警戒区域ですか?**

はい → **在宅避難**  
 危険の少ない地域であれば、在宅で待機するのも立派な避難行動です。「もしも」に備えて水平避難の準備もしておきましょう。

いいえ → **水平避難**  
 雨や風が弱いうちに、危険の少ないエリアにある安全な場所に避難しましょう。複数の避難先を検討してください。  
 ① 親戚や友人の家  
 ② ホテルなどの宿泊施設  
 ③ 行政などが開設する避難場所  
 ※開設状況はホームページ等で必ず確認してください。

**Q2 建物は頑丈ですか? マンション居住ですか?**

はい → **在宅避難**

いいえ → **垂直避難**  
 今回の建物の2階以上や、近くの高い建物に避難します。既に浸水が始まっている、屋外への避難が危険な場合にも有効です。

**Q3 ハザードマップの浸水深より高い場所や階に避難できますか?**

はい → **水平避難**

いいえ → **垂直避難**

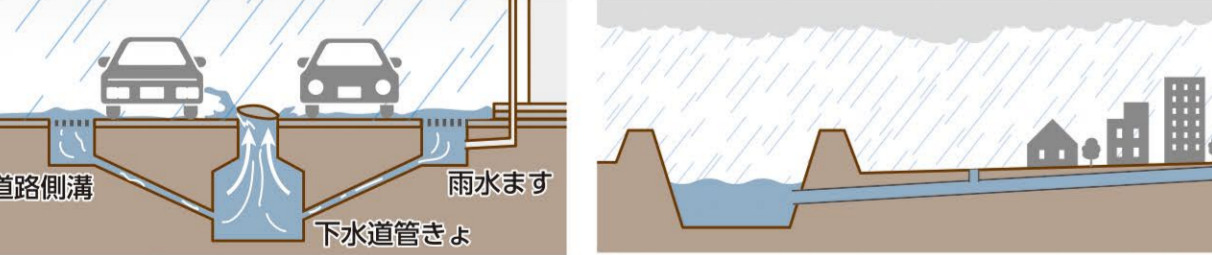
## 2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について

**内水氾濫の発生**

大雨が降ると下水道などで全ての雨水を排水できなくなり、内水による浸水が起こります。



宅地に降った雨は雨水ますへ、道路に降った雨は道路側溝などに集まり、下水道や水路等を通して河川に排水されます。



### 大雨の時はこんな点に注意しよう

- 集中豪雨に注意しよう** 突発的かつ局地的な集中豪雨に備えて、ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。
- やや強い雨 1時間に10~20mmの雨量をさしていてもぬれてしまうほどの土砂降り。側溝や下水道などがあふれる。
  - 強い雨 1時間に20~30mmの雨量をさしていてもぬれてしまうほどの土砂降り。側溝や下水道などがあふれる。
  - 激しい雨 1時間に30~50mmの雨量をさしていてもぬれてしまうほどの土砂降り。側溝や下水道などがあふれる。
  - 非常に激しい雨 1時間に50~80mmの雨量をさしていてもぬれてしまうほどの土砂降り。側溝や下水道などがあふれる。
  - 猛烈な雨 1時間に80mm以上の雨量をさしていてもぬれてしまうほどの土砂降り。側溝や下水道などがあふれる。大規模な災害が発生するおそれがある。

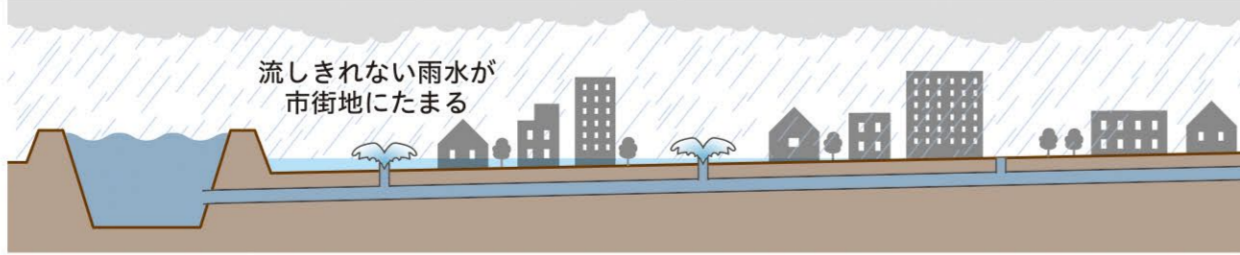
## 内水氾濫の発生

激しい雨が連続すると、洪水(河川氾濫)の危険が高まります。



内水氾濫とは、雨の量が下水道などの排水能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することです。

流しきれない雨水が市街地にたまる



### 内水ハザードマップとは?

内水氾濫によって想定される浸水区域や浸水深などの情報をまとめたマップです。また、この内水ハザードマップは、河川の堤防を越えて水があふれることも表現していますが、堤防の決壊は想定していません。洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

横浜市では1時間あたりの雨量が50mm~60mmに対応する下水道整備を進めています。内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、市民の皆様の日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。

**想定降雨 1時間で153mmの降雨**

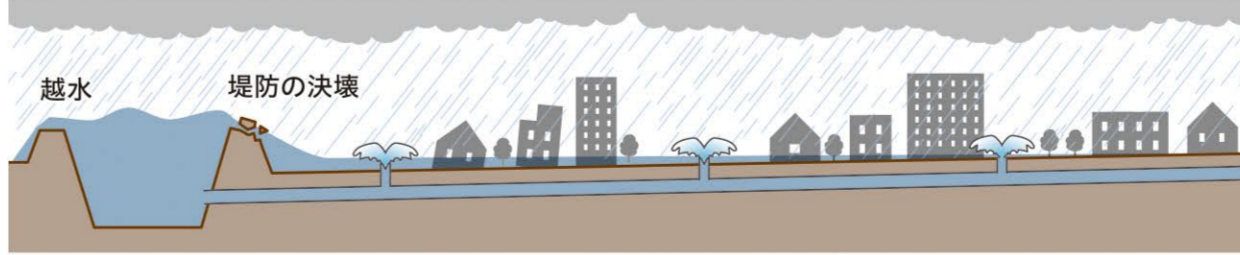
## 洪水(河川氾濫)の発生

洪水(河川氾濫)とは、大雨によって河川などの水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊したりすることです。家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こします。



洪水(河川氾濫)とは、大雨によって河川などの水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊したりすることです。家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こします。

越水 堤防の決壊



### 洪水ハザードマップとは?

洪水によって想定される浸水区域や浸水深などの情報をまとめたマップで、浸水が想定される区域の皆様は速やかに避難していただくために作成したものです。

河川上流域にのみ降雨が降っている場合など、雨の降り方によっては、内水氾濫より前に洪水(河川氾濫)が発生することもありますので、気象情報や河川水位にご確認ください。

**想定降雨 24時間で632mmの降雨(境川水系)**

## 防災気象情報と取るべき行動

☐情報の入手方法と日頃からの備えの「避難の考え方」もお読みください。

警戒レベル	防災気象情報				(警戒レベルごとの) 住民が取るべき行動
	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮	
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫 特別警報	レベル5 大雨 特別警報	レベル5 土砂災害 特別警報	レベル5 高潮 特別警報	【命の危険 直ちに安全確保!】 ●災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。
<警戒レベル4までに危険な場所からかならず避難!>					
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫 危険警報	レベル4 大雨 危険警報	レベル4 土砂災害 危険警報	レベル4 高潮 危険警報	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難する。
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫 警報	レベル3 大雨 警報	レベル3 土砂災害 警報	レベル3 高潮 警報	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、妊産婦や乳幼児を連れてきた方等)とその支援者は、安全な場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。
警戒レベル2	レベル2 氾濫 注意報	レベル2 大雨 注意報	レベル2 土砂災害 注意報	レベル2 高潮 注意報	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。
警戒レベル1	早期注意情報				【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注目する。

※警戒レベルにかかわらず、身の危険を感じる場合は避難を開始(警戒レベル4までに危険な場所からかならず避難!) ※警報等が解除されても、河川の水位情報等には注意してください。